

## 平成28年度大学リーグやまぐち事業決算額・積算内訳(案)

## ■ 管理費

(単位：円)

| 事項(担当) | 管理運営関係 (担当：事務局 (県学事文書課))       | 予算額     | 決算額     | 増減額       |
|--------|--------------------------------|---------|---------|-----------|
|        | 会議費 (代表者会議等)                   | 30,000  | 2,311   | △ 27,689  |
|        | 旅費                             | 90,000  | 24,840  | △ 65,160  |
|        | 通信・運搬費                         | 5,000   |         | △ 5,000   |
|        | 消耗品費                           | 15,000  |         | △ 15,000  |
|        | 諸会費 (全国大学コンソーシアム協議会・年会費 (H29)) | 20,000  | 20,000  | 0         |
|        | 雑費 (全国フォーラム参加費、1名分)            | 32,000  | 15,000  | △ 17,000  |
|        | 雑費 (振込手数料等)                    | 75,000  | 51,688  | △ 23,312  |
|        | 計                              | 267,000 | 113,839 | △ 153,161 |

## ■ 事業費

| 事項(担当) | 公開講座 (担当：山口学芸大学等) | 予算額     | 決算額    | 増減額      |
|--------|-------------------|---------|--------|----------|
|        | 講師旅費              | 30,000  | 56,246 | 26,246   |
|        | 講師謝金              | 26,000  |        | △ 26,000 |
|        | 通信・運搬費            | 5,000   |        | △ 5,000  |
|        | 会場借料              | 10,000  |        | △ 10,000 |
|        | 印刷製本費             | 40,000  |        | △ 40,000 |
|        | 雑費 (消耗品費)         | 4,000   |        | △ 4,000  |
|        | 計                 | 115,000 | 56,246 | △ 58,754 |

| 事項(担当) | 国際交流・留学生関係 (担当：山口大学) | 予算額     | 決算額 | 増減額       |
|--------|----------------------|---------|-----|-----------|
|        | 雑費 (大型バス借上げ)         | 200,000 |     | △ 200,000 |
|        | 諸謝金 (学生アルバイト)        | 30,000  |     | △ 30,000  |
|        | 計                    | 230,000 | 0   | △ 230,000 |

| 事項(担当) | FD (担当：山口大学)       | 予算額    | 決算額    | 増減額      |
|--------|--------------------|--------|--------|----------|
|        | 講師謝金 (1名分)         | 15,000 | 35,497 | 20,497   |
|        | 講師旅費 (1名分：岡山往復日帰り) | 25,000 |        | △ 25,000 |
|        | 計                  | 40,000 | 35,497 | △ 4,503  |

| 事項(担当) | SD (担当：大学リーグFD・SD部会) | 予算額    | 決算額    | 増減額     |
|--------|----------------------|--------|--------|---------|
|        | 講師謝金 (2名分)           | 24,000 | 24,564 | 564     |
|        | 講師旅費 (1名分)           | 50,000 | 46,616 | △ 3,384 |
|        | 計                    | 74,000 | 71,180 | △ 2,820 |

| 事項(担当) | 図書館連携 (担当：山口大学、山口県内各大学) | 予算額     | 決算額     | 増減額       |
|--------|-------------------------|---------|---------|-----------|
|        | 印刷製本費：ポスター作成費           | 70,000  | 169,884 | 99,884    |
|        | 印刷製本費：パンフレット作成費         | 100,000 |         | △ 100,000 |
|        | 計                       | 170,000 | 169,884 | △ 116     |

|     |         |         |           |
|-----|---------|---------|-----------|
| 合 計 | 896,000 | 446,646 | △ 449,354 |
|-----|---------|---------|-----------|

## 平成28年度コンソーシアム主催事業・事業報告書

|                  |   |    |              |        |
|------------------|---|----|--------------|--------|
| 事項及び担当機関         | 公開講座 (担当：山口学芸大学、山口芸術短期大学)   |    |              |        |
| 事業名称             | 公開講演会 「デザインの基礎としての科学と造形訓練」  |    |              |        |
| 主催               | 山口学芸大学、山口芸術短期大学   |    |              |        |
| 担当者              | (所属・職名) 山口学芸大学、山口芸術短期大学<br>学 生 部 次 長  |    | (氏名) 村 中 隆 実 |        |
| [連絡先]            | TEL：(083)972-3288   |    |              |        |
| 共催・後援等<br>(協力体制) | 共催：大学リーグやまぐち<br>後援：山口市、山口市教育委員会   |    |              |        |
| 事業の趣旨<br>・目的等    | <p>山口学芸大学及び山口芸術短期大学は、郷土の先覚者・吉田松陰が説く「至誠」の心を軸に、芸術を基盤とする教育を通して豊かな教養と感性を身につけ、新しい時代に対応できる高度な専門知識や教育力を持つ人材の養成を目指しています。</p> <p>芸術表現の基盤の一つである「基礎デザイン」能力の養成は、科学的な根拠に基づく視覚の知覚能力訓練と、造形要素である色・形・素材の組み合わせにより美・快・楽を表現する構成能力の訓練によって達成できるとされています。</p> <p>今回は、情報化社会の高度化に伴い、メディアコンテンツの制作能力を持つ人材育成が望まれている現代において、どのようなデザイン領域でも活躍できる人材育成の基本となる「基礎デザイン」教育について、理解を深めたいと存じます。</p> |    |              |        |
| 事業の内容            | <p>日 時：平成28年10月27日 (木) 16:20～18:30<br/>場 所：山口学芸大学、山口芸術短期大学キャンパス A棟400教室</p> <p>講演1 「デザインの基礎としての造形と科学の連携」<br/>内容 生活の質を高めるデザインの基礎は造形+科学であるという理念について<br/>講師 小林 昭世 (武蔵野美術大学・基礎デザイン学科 教授)</p> <p>講演2 「造形能力訓練としての“木下メソッド”」<br/>内容 視覚の知覚能力を高める造形訓練としての構成学に基づく木下メソッドについて<br/>講師 三宅 宏明 (株)松下美紀証明設計事務所 ライティングデザイナー)</p>   |    |              |        |
| 事業実施経費           | 経費項目 (積算内訳含む)   | 員数 | 単価           | 金額     |
|                  | 講師旅費 (小林昭世氏、三宅宏明氏)  | 2  |              | 49,980 |
|                  | チラシ作成費  | 1  |              | 6,266  |
|                  | 計   |    |              | 56,246 |
| 実施結果             | <p>武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科教授の小林昭世先生に「デザインの基礎としての造形と科学の連携」と題して、デザインと私たちの生活の関わりや「基礎デザイン」能力の科学的な育成について、視覚化する方法など映像をおとしてわかりやすく講演され、続いて、本学の客員准教授でもある(株)松下美紀照明設計事務所ライティングデザイナーの三宅弘明先生には「デザインの現場で求められる感覚を養うための造形能力訓練」について、実際、現場で関わられた数多くの事例から、どのようなデザイン領域においても基本となる、デザインの「ものさし」を持つことの大切さについて講演され、本学学生のみならず参加された他大学学生や社会人の方々からも好評を得られた講演となった。</p>                     |    |              |        |

# 平成28年度コンソーシアム主催事業・事業報告書

|                  |  |    |    |        |
|------------------|--|----|----|--------|
| 事項及び担当機関         | FD (担当：コンソーシアム事務局 [山口大学])  |    |    |        |
| 事業名称             | FD研修会 (全学FD・SD講演会)   |    |    |        |
| 主催               | 山口大学大学教育機構   |    |    |        |
| 担当者              | (所属・職名) 教育支援課教育企画係長 (氏名) 野村 治宣   |    |    |        |
| [連絡先]            | (TEL: 083-933-5150)<br>(FAX: 083-933-5225)   |    |    |        |
| 共催・後援等<br>(協力体制) | 大学コンソーシアムやまぐち  |    |    |        |
| 事業の趣旨<br>・目的等    | <p>中教審の質的転換答申(平成24年8月)では、今後、速やかに取り組むことが求められる事項として、学位授与の方針の下で、学生に求められる能力をプログラムとしての学士課程教育を通じていかに育成するかを明示すること、プログラムの中で個々の授業科目が能力育成のどの部分を担うかの認識を担当教員間の議論を通じて共有し、他の授業科目と連携し合いながら組織的な教育を展開すること、さらに、プログラム共通の考え方や尺度(アセスメント・ポリシー)に則った成果の評価、その結果を踏まえたプログラムの改善・進化という一連の改革サイクルが機能する全学的な教学マネジメントの確立を図ることを求めている。そこで、本年度の全学FD・SD講演会では、学修達成度の評価、特にその可視化の方法について考える。さらに、開発された評価システムを活用して学生の主体的な学びをどのように誘発させるかを考える。このために、この分野で先進的に取り組まれている2つの大学の先生方を招聘し、学修達成度の評価および可視化の方法や当該システムを活用した学生の主体的な学びに結び付けていく方法等について紹介していただくとともに、山口大学が全学的に導入を目指しているYU CoB CuSのしくみや意義を全学で共有する。さらに、パネルディスカッションを通して、学習達成度の評価や可視化に向けての課題とその解決策、評価システムを活用した個々の学生のリフレクション(振り返り)を通じた主体的な学びに結び付ける指導方法等について考える。</p>               |    |    |        |
| 事業の内容            | <p>講演テーマ：「学修達成度の評価および可視化を考える<br/>—教育を変え、学生の主体的な学びを誘発させるために—」<br/>講師：岡山大学教育開発センター副センター長 佐々木 健二 教授<br/>新潟大学教育・学生支援機構 教育支援センター 後藤 康志 准教授<br/>日時：平成28年8月10日(水) 13:30~16:30</p>   |    |    |        |
| 事業実施のための<br>必要経費 | 経費項目(積算内訳含む)   | 員数 | 単価 | 金額     |
|                  | 講師謝金(岡山大学 佐々木健二教授)   | 1  |    | 13,125 |
|                  | 講師旅費(岡山大学 佐々木健二教授)等  | 1  |    | 22,372 |
|                  | 計  |    |    | 35,497 |
| 実施結果             | <p>平成28年8月10日(水)13時30分より山口大学の3つのキャンパスおよび大学コンソーシアムやまぐち(現大学リーグやまぐち)の加盟機関である東亜大学、山口学芸大学、徳山高専の3大学をインターネット回線で繋いで実施した。参加総数は92名(昨年85名)であり、計画通り実施した。</p> <p>講演会は2部構成で行った。<br/>第1部ではDPの達成度を可視化するシステムである新潟大学学士カアセスメントシステム(以下、NBAS)を平成22年度より導入している新潟大学、全学的に学習達成度の可視化を目指す評価システムである学士課程教育構築システム(以下、Q-cum)を導入している岡山大学の2つの事例を紹介いただいた。</p> <p>第2部のパネルディスカッションでは、最初に山口大学国際総合科学部の川崎教授から国際総合科学部がすでに導入しているYU CoB CuSの概要と課題を説明していただいた後に、学習達成度の可視化を目指す評価システムの開発及び運用をめぐる課題や、当該システムを利用した学生の自主的な学びを誘発させるための工夫や教育的な効果について、パネルディスカッションを通して明らかにした。また、会場からパネリストに対する質疑応答も行われた。</p> <p>(参加者の内訳)<br/>山口大学56名(吉田地区34名(昨年度43名)、小串地区18名(昨年度13名)、常盤地区4名(昨年度8名))、山口学芸大学6名(昨年度7名)、東亜大学3名(昨年度4名)、徳山高専6名、他大学出席者21名</p> |    |    |        |

## 平成28年度コンソーシアム主催事業・事業報告書

|                  |  |    |            |        |
|------------------|--|----|------------|--------|
| 事項及び担当機関         | SD (担当：コンソーシアムFD・SD部会)   |    |            |        |
| 事業名称             | 山口大学・大学リーグやまぐちSDセミナー2016   |    |            |        |
| 主催               | 山口大学・大学リーグやまぐち   |    |            |        |
| 担当者              | (所属・職名) 人事課サービス管理係長  |    | (氏名) 森本 和宏 |        |
| [連絡先]            | (TEL: 083-933-5028)  |    |            |        |
| 共催・後援等<br>(協力体制) | 大学マネジメント研究会, 大学行政管理学会中国・四国地区研究会  |    |            |        |
| 事業の趣旨<br>・目的等    | <p>2013年度から実施する山口大学・大学コンソーシアムやまぐちSDセミナーは3年続けて盛況であり、山口大学及び山口地域の大学等から毎年度100名を超える参加がある。また、参加者アンケート等から、大学間連携を通じたSDセミナーを継続的に開催する要望が多数寄せられている。このようなニーズを踏まえながら、2015年度においても、山口大学・大学コンソーシアムやまぐちSDセミナー2016を企画し、開催することとする。</p> <p>2016年度においては、これまで3年間続けてきたSDセミナーで提案されたアイデアや意見等を参照しながら、大学職員の強みが活かせる大学づくりについて考えてみたい。組織経営に関する専門家を招へいた基調講演を行うほか、参加者によるグループワークを通して、各大学共通のテーマやノウハウの共有を図りながら、山口地域の大学職員の人的ネットワークづくりの強化を促進することを目的とする。</p>  |    |            |        |
| 事業の内容            | <p>日時：平成28年12月21日（水）13:30～17:15<br/>開会の挨拶・趣旨説明 山口大学学長 岡 正朗<br/>第一部《基調講演&amp;ショートトーク》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「立命館・大学アドミニストレーター養成プログラム10年の歴史と実績」<br/>学校法人立命館 人事担当部長 (株式会社クレオテック取締役) 塩田 邦成 氏</li> <li>「立命館・大学アドミニストレーター養成プログラム受講経験を活かして」<br/>学校法人立命館 総合企画部国際連携課 市原 岳洋 氏<br/>立命館アジア太平洋大学学長室課長補佐 宮原 久実 氏</li> </ol> <p>第二部《グループワークセッション》<br/>「クロス・ジェネレーション - 政策課題を発見し・はぐくみ・かたちにするには -」<br/>ファシリテーター 山口大学 大学教育機構大学教育センター准教授 林 透<br/>クロージング・閉会の挨拶 山口大学理事・副学長 田中 和広<br/>[総合司会：山口大学 大学教育機構 大学教育センター准教授 林 透]</p>   |    |            |        |
| 事業実施のための<br>必要経費 | 経費項目 (積算内訳含む)  | 員数 | 単価         | 金額     |
|                  | 講師謝金 (塩田邦成氏)   | 1  |            | 24,564 |
|                  | 講師旅費 (市原岳洋氏、宮原久実氏)   | 2  |            | 46,616 |
|                  | 計  |    |            | 71,180 |
| 実施結果             | <p>参加者：第一部 104名 (山口大学70名、他大学34名)、第二部 48名 (山口大学23名、他大学25名)<br/>内訳：山口大学70名、山口県立大学1名、下関市立大学7名、徳山大学6名、宇部フロンティア大学4名、東亜大学1名、山口東京理科大学5名、水産大学校2名、山口県庁2名、その他県外大学関係者6名</p> <p>第一部の基調講演&amp;ショートトークでは、まず、塩田邦成 学校法人立命館 人事担当部長 (株式会社クレオテック取締役) より、「立命館・大学アドミニストレーター養成プログラム10年の歴史と実績」と題して講演があった。大学アドミニストレーター養成プログラムの中心である「政策立案演習」を2015年度から内容変更し、幹部養成という当初の目的から裾野を広げ、入職4～7年の職員全員の受講を義務付ける「政策立案トレーニング」を導入し、全体的な政策立案能力の底上げを図っていることが紹介された後、立命館における意思決定プロセスにおける、職員による政策立案の意味について説明があった。業務分析や担い手を整理し、専任の大学職員の役割を具体的に提示した点は、どの大学においても参照すべきモデルである。次に、市原岳洋 学校法人立命館 総合企画部国際連携職員、宮原久実 立命館アジア太平洋大学学長室課長補佐より「立命館・大学アドミニストレーター養成プログラム受講経験を活かして」と題して話題提供があり、研修による政策立案の趣旨目的を明示した上で、現場での実践を通じた成果を具体的に説明し、研修の効果と実践力の確かさが感じられた。</p> <p>第二部のグループワークセッションでは、林 透 大学教育センター准教授のファシリテーションにより、「クロス・ジェネレーション - 政策課題を発見し・はぐくみ・かたちにするには - 」というテーマでグループワークを行った。世代や職階ごとに分かれたグループにおいて個人や同世代での職業意識・職業経験・モチベーションをリフレッシュした後、世代や職階が混ざり合ったグループにおいて自己実現とチーム協働のコンセプトや具体策について対話した。後半の全体発表では、知識創造モデルの4画面に基づきプレゼンが行われ、風通しのよい組織づくり、世代間や大学間のつながり、学生ファーストなどのキーワードとした発表があり、相互理解のための場づくりの大切さや大学職員の役割について改めて認識し合う機会となった。</p> |    |            |        |

## 平成28年度コンソーシアム主催事業・事業報告書

|              |  |                        |      |         |
|--------------|--|------------------------|------|---------|
| 事項及び担当機関     | 図書館連携（担当：山口大学、山口県内各大学）   |                        |      |         |
| 事業名称         | 山口県大学ML（博物館・図書館）連携特別展  |                        |      |         |
| 主催           | 山口県大学ML連携事業事務局（担当：山口大学）  |                        |      |         |
| 担当者          | （所属・職名）  | 山口大学大学情報機構埋蔵文化財資料館 助教  | （氏名） | 横山 成己   |
| [連絡先]        | （所属・職名）  | 山口大学情報環境部学術情報基盤整備室 副課長 | （氏名） | 永久 英雄   |
|              | 083-933-5192、5035  |                        |      |         |
| 共催・後援等（協力体制） | 共催：山口県大学図書館協議会・大学リーグやまぐち<br>後援：大学博物館等協議会・山口県博物館協会・山口県図書館協会   |                        |      |         |
| 事業の趣旨・目的等    | <p>山口県大学ML（ミュージアム・ライブラリー）連携事業として、平成23年度から継続して連携特別展を開催している。この事業は、各大学が所蔵する学術資料や各大学の研究成果をもとに展示活動を実施し、大学のブランディング及び地域への大学の説明責任の一端を果たすとともに、大学連携並びに地域貢献事業として位置付けている。</p> <p>この事業は継続することが重要であり、毎年度一定のテーマを定めて特別展を実施し、平成25年度は9大学12館、平成26年度は11大学15館、平成27年度には12大学17館の大学博物館・図書館の参加があった。</p>                 |                        |      |         |
| 事業の内容        | <p>平成28年度山口県大学ML連携事業では、更なる参加大学の拡大を図るとともに、昨年度と同様に、開催期間を定めた上で、各大学において資料展示等を開催する。平成28年度の共通テーマは「はぐくむ」。</p> <p>開催期間は、10月～1月とし、各大学の実施可能期間（最短でも2ヶ月間）にそれぞれ実施する。また、地域の方々等の来館者数の増加を図るため、広報活動を拡充するとともに、実施期間中の各会場でスタンプラリーを実施し、一定のスタンプを取得された方には、記念品等を贈呈する。</p>  |                        |      |         |
| 事業実施のための必要経費 | 経費項目（積算内訳含む）   |                        | 員数   | 単価      |
|              | チラシ作成費   |                        |      | 169,884 |
|              | 計  |                        |      | 169,884 |
| 実施結果         | <p>平成28年度の参加館は、前年度と同じ12大学17館であった。</p> <p>共通テーマを「はぐくむ」とし、大学間連携及び学術資料や教育研究成果の継承、事業の継続を意識し、展示活動を実施した。各参加館がそれぞれ展示テーマを定めて、平成28年10月から平成29年1月の間、所蔵する学術資料や研究成果、教育素材をテーマに沿って構成し展示した。</p> <p>また、2月16日13時から本学でML連携事業報告会を開催し、各参加館の事業成果のとりまとめ並びに平成29年度実施計画等について協議を行った。さらに平成28年度ML連携事業の事業報告書を3月31日に刊行した。</p> |                        |      |         |